



共に生きる

NPO 法人
福島の子どもたちを守る会・北海道

《ニュースレター》2015年 春～初夏版



この3月で東日本大震災から4年がたちました。2011年生まれの子どもさんが4歳になる年月です。復興の掛け声とはうらはらな状況に置かれている方々がまだまだたくさんおられます。それどころかより深刻な苦しみや悩みを抱えている方々も多いのではないのでしょうか？

さて、この間継続してきた当会の春保養も3月26日から4月2日まで、リピーターを含む9家族31人を受け入れることができました。子どもたちは蘭越でもかおりの郷でもとにかく雪遊び、出発のバスに乗る寸前まで遊んで靴をびしょ濡れにして乗り込む子も。ことさらイベントがなくても、思いっきり外で遊ぶことが子どもたちにとって何よりの心と体の保養となったのではないのでしょうか。かおりの郷ではお隣のパン屋さん「あゆんぐ」さんのご協力でピザづくりを楽しんだほか、市内観光では、ボランティアさんの案内で大倉シャンツェや円山動物園で歓声を上げ、たまたまシロクマの赤ちゃんの公開に間に合ってラッキーでした。その間、検診を受けられた家族もありました。

昨年来、多くの方のお力を借りてオープンした「かおりの郷」は、昨年12月末「うけいれ隊」さんの保養に使っていただき、また1月にはリピーターの3家族が「お試し保養」として3日間滞在、それぞれ要望や不備な点などを指摘してもらい、本格的な運用に備えておりました。まだまだ改善や整備の余地はありますが、まずは快適に過ごしていただいたようでした。なにより、アットホームな雰囲気の中で、お母さんたちがリラックスしてお

保養所「かおりの郷」本格スタート！

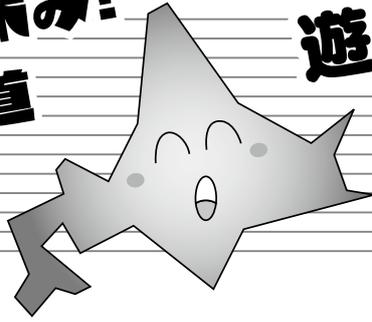
互いの距離も近づいて色々な情報交換や、普段なかなか言葉にできない話を思い切りできたようです。なんといっても食事担当ボランティアさんの活躍がそれを支えてくれました。また、子どもたちの雪遊びにつき合ってくれた大学生、外遊びボランティアさんも長時間ご苦労さまでした。

保養に来られた方たちのお話を聞くと、福島では保養に行くこと自体「気にしすぎだ」という圧力が強まっていて、孤立させられています。普段の付き合いも疑心暗鬼ですごいストレスにさらされているようです。「でも、いざとなったらここに来ればと思ったら安心できるんです」と言われた言葉を心にとどめて忘れないようにしましょうと思います。

最近思い出したことですが、2008年に妹のかおりが帰国したとき、「少しのんびりしたいから郊外に住みたい」と家や土地を探した際、八剣山の麓に果樹園付の物件が出て、見に行ったらいいのですが、何かの条件が合わずに購入はしませんでした。今から思えば何かしらご縁があったのかも。泉かおり本人はこの「かおりの郷」の実現を目にすることはできませんでしたが、その遺志が形になりそしてみなさまの心の中にも受け継がれていくことを信じていたに違いありません。今後も保養を必要とする家族がいる限り、最大限うけいれていきたいと思います。ぜひ、多くの皆さんのより一層のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

福島の子どもたちを守る会
副理事長 泉 恵子

2015 春休み!
in 北海道



遊んで
食べて
笑った～



参加者の声

今回フェリーでなく飛行機だと聞いていたので、関東に高速バスで行くより早いのかなと思っていましたが空港からが意外に遠く北海道の広さを感じました。子どもたちが自由に思うように遊ぶことができそれを安心して見ることができてとても良かったです。

参加したのは春休みで観光には少しもったいないような気もしましたが子どもたちはそれぞれの場面で楽しみを見つけ遊べていたと思います。また雪のない季節に来たいという楽しみもできました。放射

震災から4年が過ぎました。昨年は次々と原発事故の新たな情報が入ってきた年だったように思います。7月には東電が記者会見で瓦礫撤去の過程で1兆ベクレルを超える放射性物質が飛散したことを報じました。又、NHKは東京理科大の分析結果として130キロ離れた茨城県つくば市で採取した大気中のチリに核燃料や原子炉内の構造物と一致する物質が直径2マイクロMほどのボール状で確認されたことを報じていました。

そして、小児甲状腺ガン発症および発症疑いが確認される県内の子どもたちが段々増えつつあり会津若松市では15,000人中5人発症または疑いが確認されました。事故後、いかに悲惨なものであったか、実態が明らかになってきています。

この原発事故はチェルノブイリ事故と比較されますが、大きく異なるのは、放射線を遮断できていないことです。チェルノブイリは軍隊を動員して大きな犠牲を払い原子炉をコンクリートで囲い強い放射線を遮断できたようですが、福島原発は未だに汚染水はあふれているし放射性物質を毎日放出し続けているのです。

線の被害はどれくらいでるか分からないしそういう経験は誰もしたことがないけれど、普通に子育てしているなかでの心配もあります。子育ての先輩、人生の先輩たちが福島に心を寄せてくれて話を聞いてくれたりアドバイスをしてくれました。それがとてもうれしかったです。会員の皆さま、寄附をくださった方々ありがとうございます。なかなか遠くていつもは来られないけれどいざという時いつでも逃げていける場所であり続けていてほしいです。私だけのためになく福島やその周りのママや子どものために。そんな場所があるだけで、福島でもがんばれる気がします。

郡山市 M・F

これからどんな結果を招くのか？まったくわからないまま私たちは生きています。

またいつ大事故が起こってもおかしくない状況で、私たちが予防できることは、内部被ばくを避けるために食に気を付けること。被ばく時間を短くすること、つまり遠方に保養することしか手段はありません。

子どもたちが少しでも安全な環境に身を置いてできるだけ数日間の保養をさせることが予防原則のひとつであると専門家は口をそろえて言います。

年に数回くらい、安全な環境の下で何の制限もなくのびのびと思いっきり自由に遊ばせてあげたい。そうすることで、ストレスから解放され免疫力を高められ予防できるのです。私たちが普通の暮らしをすることは震災を機にとっても特別なことになりました。

健康に育つ権利を奪われてしまった子どもたちをどうか助けてください。

この想いが日本中、世界中に届きますように!

いわき市 S・W

保養って何？

2011年東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故により、水や大気が放射性物質に汚染された福島に住むお子さんたちが、長期休暇などを利用して福島から離れ、普通に外遊びや土遊びをしてもらおうと始めた活動です。それによってストレスの軽減や免疫力が高まることが期待されます。全国各地で保養を受け入れる活動が展開されていますが、当会は2011年夏から15年春までに11回350人を超える方たちを北海道に招いています。



ボランティアの声

今回初めて、保養のボランティアに参加しました。かおりの郷では、大学生のボランティアと雪遊びをする子どもたちの笑顔がとても可愛かったです。初めて、スキーをしたお子さんが、将来スキー選手になりたいと言っていました。

また、原発事故後、関東地方や上越地方と数か所の避難をされ、自宅へ戻られたお話をお聞きしまし

東海大学の学生の方たちがボランティアで毎回かわってくださっています、そこで、ひとことインタビュー！

夏、春と連続のボランティアありがとうございます。感想を伺えますか？

★3日間子どもたちと遊ぶボランティアをしました。夏は水遊び、春保養の時は雪遊びが主です。大変喜



た。幼いお子さんを連れての避難のご苦労を思うと、胸が締め付けられる思いでした。

お子さんの食べる食材を選ぶのに、思い悩み、遊ばせる場所を考えたりと、お母さん方も大変だと思います。

お子さんもお母さん方も何も考えずに、おいしい時は「おいしい」、楽しい時は「楽しい」、と言える、保養はとても大切だと思いました。

これからもボランティアとしてできるだけ参加していきたいと思います。

浦井 直子

んでいましたが、北海道ならではのもっとさらさらの雪を味わわせてあげたいな～と思いました。

気が付いたことはありますか

★子どもたちから雪玉をたくさん当てられました。解放的になることはとてもいいと思いますが、もう少し、やさしくぶつけてほしいな～（つらい思いもされたようですね～）

この活動に参加していかがでしたか

★普段、小さい子どもたちと接する機会が全くないので、このボランティアで子どもたちと遊ぶことは、自分にとってもとても良い経験になりますし楽しいです。

東海大学 支倉 僚太

さんでした。



またね!

イベントの報告

4月4日、「福島の子どもたちを守りたい! inチカホ・出前授業×ストリートライブ」

今回も、この3月末に私が福島を訪問して見てきたことや会ってきた人たちのお話を中心に、出前授業をさせていただきました。また、毎回、主旨に賛同して出演してくれる沢山のミュージシャンたちが、次々と素晴らしい音楽を披露してくれました。当日は、天気も

良くて、チカホを通行される方も、とても多かったのも、足を止めてステージやブースを覗いていただける人もけっこうい



ました。陰で支えて下さったスタッフの皆さん、そして、チカホに足を運んで下さった沢山の皆さんのおかげで、とっても素晴らしいイベントになりました。本当に、ありがとうございました。 **理事 川原 茂雄**

5月3日「福島の子どもたちの現状」

—保育の現場から見えてきたこと— 「こどものいえ そらまめ」門間貞子園長講演会

「こどものいえ そらまめ」は福島市渡利地区にあった民間の保育施設です。しかし、渡利地区は3,11福島原発の事故により高濃度の放射性物質が降り注ぐホットスポットになったため多くの園児が転居や避難。「そらまめ」は閉鎖になりました。その後の「そらまめ」そして福島の子どもたちの様子を伺うために講演会を企画しました。しかし当日、門間先生の飛行機が機材繰りの都合で遅れて到着という状況になったため、急ぎよ、「そらまめ」の卒園生の母で、家族で札幌に避難されているNさん、妹背牛に避難されているSさん、そらまめを3,11以後支援してきた、東京のNPO「てんぐるま」の打本俊昭理事そして、そらまめの元職員で今は札幌に避難

されているN保育士さんの4人をパネラーに、当会の中手聖一理事をコーディネーターにお願いし、ミニフォーラムを行いました。シュタイナー教育の実践をめざす園の方針に誇りをもっていた職員や保護者、子どもたちの生活の場が原発により一瞬のうちに汚染された場所になってしまった。その驚き、悲しみが伝わってくるお話を伺うことができました。その後門間先生が到着されミニ講演を行いました。「そらまめ」は、渡利から遠く離れた地域で新たな保育実践をはじめていますが、子どもたちは減り運営は厳しい状況です。ひとたび原発事故が起きると、生活が根こそぎ奪われていくことを痛感させられるお話でした。門間先生には翌4日、かおりの郷を視察いただき、秋には「そらまめ」の園児たちが、保養にすることができるよう検討して下さることになりました。多くの子どもたちが滞在してくれたらいいな—と待ち遠しい思いです。

理事 山口 たか

親子ですぐす春休みin北海道 (3/26 ~ 4/2) 収支計算書

今回の春休み保養にさいしては、札幌市のさぼーとほっと基金、北海道教職員組合後志支部、をはじめ、団体、個人の方から野菜、米、お菓子、 Pasta、カンパ金など物心両面にわたり多くのご支援をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

収入		支出	
項目	金額 (円)	項目	金額 (円)
保養参加費	338,800	旅費交通費	1,249,240
当団体資金	293,640	賃借料 (蘭越宿泊)	142,500
さぼーとほっと基金助成金	414,000	切手代郵送通信費	69,700
北教組後志支部助成金	270,000	食品検査 (5品目)	15,000
寄付金・賛同金より	300,000	ピザづくり体験講習会	20,000
		食費	120,000
	計 1,616,440		計 1,616,440



保養施設“かおりの郷” ご利用の案内



保養施設“かおりの郷”がオープンしました。一時保養や移住準備などの目的にご利用いただけます。複数のご家族が滞在する場合は、シェアハウスの形態でご利用いただきます。

既に、4つのグループの一時保養に利用していただきましたが、とても居心地が良いという感想をいただいています。

場 所 札幌市南区砥山188-2

施 設 民家(6LDK)リフォーム済 個室6部屋(5帖1部屋、6帖2部屋、7.5帖1部屋、8帖2部屋)、食堂+厨房12帖、リビング12帖、風呂、シャワールーム、トイレ2か所 ※炊事用品・洗濯機・布団・暖房等完備。

対 象 者 放射能による健康被害のリスクがある地域に住んでいるご家族。空がある時には自助団体、支援団体の会合、合宿等にも利用可能です。

定 員 6家族 1部屋で1家族(3~5)人程まで利用可能です。

宿 泊 費 無料 交通費、自炊費用は自己負担。

食 事 自炊です。お米、調味料、炊事用具、食器類は用意しています。

サポ-ト 体 制 基本的に管理人が滞りますが、不在の場合もあります。食事や清掃などは各自でお願いします。基本的には家事などのサポートはしませんが、支援が必要な場合はご相談ください。できるだけ検討させていただきます。

環 境 八剣山の麓で豊かな自然に囲まれてゆっくりと滞在することができます。近くには小金湯温泉、果樹園、乗馬クラブ、ワイナリー、パークゴルフ場、キャンプ場などがあります。冬期間は敷地内でそりやチューブすべり初心者用スキーなどの雪遊びができます。

交通機関 最寄のバス停は豊滝(じょうてつバス)。バス停から“かおりの郷”まで徒歩40分程。(タクシーで片道約1千円)

※札幌中心部への移動

札幌中心部まで約20kmの距離。

バスと地下鉄の乗継の場合

バ ス：豊 滝～真駒内間 約30分 450円

地下鉄：真駒内～大通り間 約17分 290円(約10分間隔程度で運行)

最寄の買い物エリアへの移動

バ ス：豊 滝～藤野3条2丁目 約15分 280円

申し込み 方 法 ご利用希望の2週間前までにメール、FAX、郵便でお問合せください。

電話：090-6990-5447

Mail：fkmamoru@gmail.com

※利用案内はホームページ<http://fukushimakids.org/>にも掲載されています。

詳細は資料をお送りします。

「かおりの郷」を利用してみたいと考えていらっしゃる方は、ぜひ、当会までご連絡ください。

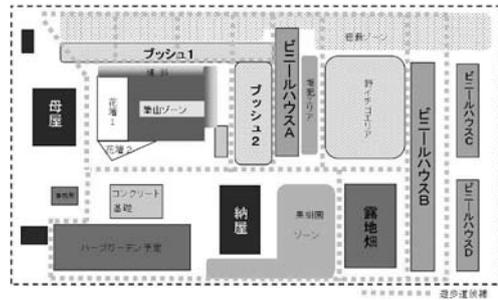
農業部会スタート!!

“かおりの郷”は、数年前まで農地だった土地をお借りしています。

約2千坪の敷地があります。一時保養に來られるみなさんに、無農薬の野菜を提供し、畑やフラワーガーデンで自然に親しんでいただけるよう農業部会を立ち上げました。

畑仕事やガーデニング好きが集まって畑、花壇、ハーブガーデン、遊歩道を整備していこうと話合っています。無理せずに楽しみながら作業をして行きたいと思っています。

一緒に作業をしてくれる方、アドバイスやご指導をいただける方、ご協力ください。種や苗、資材の提供も受けつけています。遊歩道には東屋や簡単な遊



具も設置する予定です。DIYの得意な方もぜひ、ご協力ください。

これからは週末毎に作業をする予定です。興味のある方はのそきに来てください。メーリングリストで打ち合わせをしています。より多くの方のご参加をお待ちしています。

お問合せ 担当：尾形

Email : ogatas922@gmail.com

FAX : 011-351-6184

「あとからくる者のために」

原発銀座といわれる福井県敦賀で、脱原発をめざし長年闘ってこられた、小浜市明通寺住職・中嶋哲演さんが集会などで朗読されている詩をご紹介します。

あとからくる者のために
苦勞をするのだ
我慢をするのだ
田を耕し
種を用意しておくのだ
あとからくる者のために
しんみんよ
お前は
詩を書いておくのだ

あとからくる者のために
山を川を海を
きれいにしておくのだ
ああ後からくる者のために
みんなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
未来を受け継ぐ者たちのために
みな夫々自分でできる何かをしてゆくのだ

(坂村真民「詩集・詩国」)

「守る会」の活動にかかわるすべての人に共通する想いではないかと思います。

編集後記に代えて。